

令和6年度（平塚ろう学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	<ul style="list-style-type: none"> 教育公務員としての自覚向上 教職員に求められる高い倫理観の保持・向上 心理的安全性を高め、円滑なコミュニケーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 隨時、朝の打合せや職員会議後の不祥事防止会議で、職員行動指針等の周知・徹底や、法令遵守の意識向上を図り、高い倫理観を持って行動することに取り組んだ。 情報共有ツールの活用をさらに推進し、職員間のコミュニケーションを円滑にし同僚性を高めることで、自分の考えや気持ちを、安心して発信することができる職場環境づくりに取り組んだ。
個人情報等の管理、セキュリティ対策	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報に関する事故の未然防止徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修を実施し、個人情報の取り扱いに関するルールの徹底、個人情報管理の徹底を図り、個人情報持ち出し許可や掲載許可のルールを再検討した。 ダブルチェックを徹底し、個人情報等の管理に関する誤廃棄・誤配付はなかった。引き続き注意喚起を行っていく。
児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為の防止	<ul style="list-style-type: none"> 人権侵害行為の未然防止 人権意識を持った適切な指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 職場の同僚性を高め、互いに気を付ける意識を醸成することができた。 全体研修を実施し、人権意識を高めることができた。「さん」付け呼称については、今後も意識向上を図っていく必要がある。
会計事務等の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> 公費及び私費会計の適正な執行・管理 備品等の適正な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 私費執行手順を確認しながら進めた。今後も校務グループを中心に働きかけ、手順に従った執行を徹底する。 私費会計基準に基づく適正執行、ダブルチェックによる適正な管理、処理を行い、事故無く業務遂行できた。
体罰、不適切な指導の防止	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の実態をおさえた、体罰によらない適切な指導の徹底 児童・生徒の人権を尊重した指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を推進し、児童・生徒の理解と聴覚障害教育の専門性を高め、指導力の向上を組織的に図ることで、適切な指導・支援を実践することができた。 生徒指導の場面においては、複数で対応し丁寧な指導が継続していくよう心掛けた。
職場のハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> パワハラ、セクハラ、マタハラをはじめとするハラスメントの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職による面談の機会を通して、学部・学年の様子を聞き取るとともに、改めて注意喚起を行った。チーム内での情報共有、不祥事防止会議での報告等により未然防止ができた。 同僚性を醸成し、お互いが気持ちよく働ける環境づくりを推進することができた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	<ul style="list-style-type: none"> 確実な業務遂行と点検体制の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理や進路業務において、複数チェックによる確実な取扱いを徹底し、不祥事防止会議で確認した。 入学者選抜業務について、学部や校務グループ等で確認し、業務マニュアルに従いながら職員の意識を高め、ミスのない業務遂行につなげることができた。
業務執行体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の連携を強化し、円滑な業務執行体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> Teamsを活用して情報共有、チェック機能を徹底した。 今後も学部やグループ業務を見直し、持続可能な業務内容と体制の整備を進めていく。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

神奈川県教育委員会の令和6年度不祥事防止取組方針に基づき、教育公務員としての自覚と誇りを持ち、高い倫理感の保持・向上を目指してチームとして組織的な取組となるよう啓発を行ってきた。

事故・不祥事を起こさないようにするために、日ごろから授業づくりや児童・生徒の情報共有等、教職員のコミュニケーションを大切にして同僚性を高め、風通しが良く、心理的安全性の高い職場づくりを目指して取り組んできた。

次年度も、教職員が不祥事防止に対して自分事として取り組めるように、引き続き努めていく。